

Ford の車載インフォテインメント Sync3、スマート

自動運転/IT

Ford は 2016 年 1 月、米国ネバダ州 Las Vegas で開催された CES 2016 で、独自の車載インフォテインメントシステムの 3 代目となる Sync3 の機能拡張を発表した。既存の AppLink に加え、Apple の CarPlay、Google の Android Auto に対応する。Sync3 は、2016 年春発売予定の Escape から搭載し、Escape 以降に発売される全ての 2017 年モデルに標準装備される。Ford によると、Sync は 2016 年 1 月現在、世界の 1,500 万台に搭載され、2020 年までに 4,300 万台に搭載車が拡大する見通し。Sync3 の主要サプライヤーは、システム(ハード含む)が

パナソニック、OS がブラックベリーの QNX、ナビゲーションアプリが TELENNAV である。

Sync3 は、操作性を最優先に考え、運転時の操作性を高めるために画面内の各アイコンを大きく配置するなど、可能な限りシンプルな画面デザインとし、AppLink や CarPlay、Android Auto のどれでも基本的に同じ操作感覚で利用できる設計を採用。CarPlay や Android Auto を利用する場合、スマートフォンは USB ケーブルを通じて Sync3 と自動的に接続される。携帯端末との接続が増大するとともに、各社のインフォテインメントシステムにおけ

【Ford、車載インフォテインメントシステム Sync3】

■概要

- Ford は 2016 年 1 月、米国ネバダ州 Las Vegas で開催された CES 2016 で、車載インフォテインメントシステム Sync3 について、既存の AppLink に加え Apple の CarPlay、Google の Android Auto に対応する方針を発表した。
- 2016 年春発売予定の Escape から最新バージョンを搭載予定。Escape 以降発売の全ての 2017 年モデルに標準装備する考え。
- 操作性を最優先に考え、可能な限りシンプルな画面デザインとした。AppLink、CarPlay、Android Auto のどれでも基本的に同じ操作感覚で利用できるように設計した。
- CarPlay と Android Auto に対応したことで、スマートフォンのみで Apple の Maps や Google Maps の利用が可能。選択肢を多様化させたため、利用者自身の好みに合わせて選ぶことができるのが特徴。
- 選択肢の拡大に伴い、インフォテインメントシステムの競争が過熱する見通しだが、米国では、CarPlay や Android Auto の利用拡大に対して、「自動車専用に開発された機能ではないため安全性に問題が生じる可能性が高い」との声も出ている。

- Sync3 は、2015 年夏に 2016MY (モデル年) の Escape と Fiesta から搭載開始。
- 2016 年 1 月までに搭載車種を増やしている。最新バージョンの搭載開始後、旧バージョンからのアップグレードにも対応する。
- 前モデルとなる MyFord Touch (Sync2) は 2015 年に搭載を終了。
- Ford によると、Sync3 の顧客満足度を調査したところ、回答者の 72% が「満足している」、83% が「(人に) 推薦する」と答えた。
- Ford の製品群としては、過去最高の評価となった。
- Sync (前モデル含む) は 2016 年 1 月現在、世界で 1,500 万台に搭載している。搭載車種は、2020 年までに 4,300 万台に拡大する見通し。

■サプライヤー

- Sync3 のサプライヤーは、システム(ハード含む)がパナソニック、OS がブラックベリーの QNX、ナビゲーションアプリが TELENNAV。
- OS を前世代 (Sync2) の Microsoft から QNX に切り替えた。このため、前世代との互換性はない。

*CES 2016 で発表した Sync3 の基本概要以外の機能拡張については、本誌 P5 を参照。

(Ford 広報資料、CES でのヒアリングなどより FOURIN 作成)



<Sync3、AppLink 時の画面>



<Sync3、CarPlay 時の画面>



<Sync3、Android Auto 時の画面>

【Sync3 用ナビゲーションを供給する TELENNAV、運転時の操作性を重視】

TELENNAV

Director of Customer Solutions - Japan

宮本央氏

2016 年 1 月 9 日、米国ネバダ州 Las Vegas の CES 会場周辺で実施したインタビューの内容を構成

■会社概要

「TELENNAV は、米国カリフォルニア州 Sunnyvale に本社を置く会社で、主にカーナビゲーションアプリを自動車メーカーなどに提供している。現在、取引関係にある会社は、米国を中心に、Ford、GM、AT&T、Bell Mobility、Boost Mobile、NII Holdings、QNX Software Systems、Rogers、Sprint、Telcel、T-Mobile U.S.、U.S. Cellular、Vivo Brazil、長城汽車(中国)など。日本でも現在、事業

拡大を図るために数社と連携などの話を進めている。」

「Ford については、車載インフォテインメントシステム『Sync』の標準ナビゲーションアプリに採用されている。GM の場合、標準ナビゲーションアプリの他、OnStar の Mobile App の地図と目的地検索ができる機能などに採用されている。」

■Sync3 にナビアプリ提供

「Ford の Sync は、2015 年 1 月の CES で第 3 世代となる Sync3 を初公開し、2015 年 6 月頃に 2016MY の Escape と Fiesta から搭載を開始した。我々は第 1 世代の Sync からナビゲーションアプリを提供している。Sync3 ではハードを含むインフォテインメントシステムをパナソニックが、OS をブラックベリーの QNX が担当している。」

「Sync3 には、ナビゲーションが搭載されるモデルと、搭載されな

フォンとの連携拡大、一部では安全性を懸念する声も

車載インフォテインメントシステム Sync

るシェア獲得競争は過熱する見通しである。

ただ米国では2016年現在、自動車向けに開発していないスマートフォンを車載インフォテインメントシステムと接続する際の操作が運転時の安全性を損なうと懸念する声が高まっている。AppLink に専用ナビゲーションを提供する TELENAV は、新たな競合として浮上した CarPlay や Android Auto に対して、「日常生活で用いるスマートフォンのナビゲーション機能を、無料で自動車でも使えることに強みがあるが、我々の製品は Sync3 向けに開発しており、ハンドル操作時の視線を考慮した設

計を採用したため、安全性を考慮した操作性という面で見ると、スマートフォンのアプリと差が出る」と指摘した。

TELENAV では、OS 専用ナビとしての強みを生かし、新たなサービス領域の開拓を目指している。GPS を用いて運転履歴から利用者の行動パターンを把握し、目的地を推測する機能や、登録した人と位置情報を共有することで待ち合わせ時間や場所などを柔軟に設定できる機能、車内で駐車場とその空きスペース検索・予約、決済までを可能にする e コマースサービスの提供などを検討している。

(安藤)

【Sync3 用ナビゲーションを供給する TELENAV、運転時の操作性を重視(つづき)】

いモデルがある。ナビゲーションが搭載されるモデルにはナビゲーションアプリと地図をSDカードに入れ、約800ドルで提供している。SDカードをスロットに入れたら、ナビゲーションアプリが利用できる仕組みとなっている。ナビゲーションが搭載されないモデルを利用する場合、ユーザー自身のスマートフォンなどを用いて地図検索をしているようだ。」

「ただ2016年のCESでは、FordがSync3でもGoogleのAndroid AutoとAppleのCarPlayに対応することを発表した。スマートフォンの利用拡大として、Android AutoとCarPlayへの対応は避けられない状況にある。」

「Android AutoとCarPlayに対応したSync3は、2016年から順次各モデルに搭載して投入される予定だ。運転者/搭乗者が、ナビゲーションを含むアプリケーションを独自に選べるようになり、我々としては競合となるが、独自の強みもあるため、事業面で大きな支障はないと考えている。」

■OS専用ナビとしての強み

「ナビゲーションアプリで最も重要な要素は、利用者が簡単に使えて付加価値があることだ。」

「Android AutoやCarPlayの強みは、日常生活で用いるスマートフォンのナビゲーション機能が無料で、自動車内でそのまま使えることだ。言い換えれば、利用者にとっては、手軽に利用できることを意味する。ただマイナス面としては、スマートフォン向けのナビゲーションで自動車向けではないため運転時の操作環境が考慮されていないこと、自動車での利用時にはUSBケーブルで接続する必要があること、ナビゲーションを利用している時に電話やメールを含めて他のアプリケーションが利用できなくなること、などが挙げられる。」

「我々の製品の強みを挙げると、運転時に最適な操作環境を考え、自動車専用に設計していることにある。運転時には周辺状況を含めて細心の注意が必要となるため、ハンドル操作時の視線などを考慮しなければならない。いかにストレスや危険から回避できるように重点を置いてカーナビゲーションのアプリケーションを開発していることが、大きな違いと言える。」

「Syncには、3世代通してアプリケーションを提供しているため基本コンセプトも熟知している。Sync3開発段階でFord側から我々に求めてきた要件は、地図のスクロール速度とルート探索速度の改善であった。多くの人が日常生活の中で、スマートフォンを用いて地図を操作しているため、自動車でも同様の速度が求められたと考えている。最終的には、搭乗者が何の疑問を持たずにナビゲーションを操作できる必要がある。搭載から数ヶ月が経つが、評判は上々だ。」

「Sync3のデザインは、背景色のグレーを基調に各アイコンが大きく、極めてシンプルな構成となっている。ここに合わせて、運転者が必要とする機能を簡単に操作できるようにした。」

「更に利便性を高めるために、独自開発による新たな主検索機能となるワンボックスサーチを実装した。ワンボックスサーチは検索機能の一種で、地域や施設名などのすべてのカテゴリーを含む全体要件から、打ち込んだ文字を予測し、検索候補を挙げる仕組みとなる。この機能は学習能力もあるため、数文字だけでも打ち込めば、検索しようと考えていた候補が瞬時に出てくる。これまでは数ステップを踏んでいた検索を、より簡略化し、大幅な操作短縮につなげた。」

■将来の技術

「自動車メーカーを含めて自動運転技術の開発が急速に進んでいることもあり、我々も新たな技術の開発を常に進めている。2016年のCESを含め基本的な方向性はコネクテッドだ。」

「我々は1999年より携帯電話向け通信型ナビゲーションを主要携帯キャリアへ提供しデータ配信サーバーを自社で管理するなどしてきた強みがある。車内外と常に繋がることで運転者の行動を予測してより安全で快適な運転環境を提供する他、仲間と繋がるソーシャル機能や、eコマースサービスの提供などの実現に向けて開発を進めている。」

「例えばGPSを用いて運転履歴から行動パターンを把握する。運転者が車に乗った時点で時間や曜日から目的地を推測し、通行ルート上に問題がないか、渋滞している場合は、別の道を紹介するなどの機能を備える。通常の道が渋滞している場合、スマートフォンなどへ事前に渋滞状況などを伝え、出発時間の再検討を促すことも可能となる。」

「ソーシャル機能は、家族など登録した人の位置情報を共有する仕組みだ。例えば、誰かに迎えを頼んだ場合、どこまで車が来ているかが分かる技術だ。または「共有した仲間の場所」と音声で目的地設定ができれば検索する手間も省ける。Sync3には採用されていないが、既に北米で市販されているTELENAVのスマートフォンアプリScoutには採用されている。」

「eコマースサービスは、車の中で様々な決済などができる仕組みだ。例えば、コーヒーを飲みたいときは店に行って注文する必要があるが、この機能を用いれば到着前に注文し決済を済ませられる。または運転中に『いつものコーヒーを』と音声で頼むこともできる。更に、駐車場の空きスペース検索と予約、決済をすれば空いている場所を探す時間や支払いで財布を出す手間も省ける。」

(FOURIN)